



ふるコンだより

発行責任者

宇部市ふるさとコンパニオンの会

会長 脇 彌生

真夏の7、8月はお休みしていた「てくてくまち歩き」ですが、9月から近郷の小学生の社会見学などを含め、一年で最も多忙な日々が過ぎ、冬がやってきた。「TOKIWA ファンタジア 2025」のガイドツアーも、クリスマスイブと年末を除き1月7日まで毎週水曜日18時から30分間行っています。一人でも気軽にご参加いただき、華やかなイルミネーションと一緒に楽しみましょう。高校生以下、70歳以上及び身体障害者手帳等お持ちの方(付き添い1名含む)は入場無料です。

てくてくまち歩き「真締川ぐるっと彫刻散歩」

6/14

野外彫刻といえば「ときわ公園」がすぐに思い浮かびますが、市街地にも約100か所に設置されていることをご存じでしょうか。今回は、その中でも多くの作品が集まる真締川沿いを歩きながら、みんなで彫刻鑑賞を楽しみました。あいにくの小雨模様でしたが、雨に濡れた彫刻たちはまた違った表情で私たちを迎えてくれました。

真締川は、18世紀末に領主・福原家によって直進化の工事が行われ、「新川」と呼ばれるようになりました。それ以来、宇部のまちの中心として発展を支えてきました。新川大橋や中津瀬神社の由来、宇部市制施行の際に架けられた緑橋、寿橋を渡って直進すると渡辺翁記念会館に至ることなど、宇部の歴史にも触れました。そのうえで、メインの彫刻鑑賞をじっくり堪能していただきました。



《懸ける》向井良吉

真締川沿いには、宇部に野外彫刻が設置され始めた初期の作品(柳原義達氏作《座る女》など)から比較的新しい作品(《大首Ⅲ》など)まで、さまざまな年代の作品が並びます。人の姿をかたどった具象彫刻から抽象彫刻まで、その形は実に多様です。鑑賞していると、私たちの想像力も広がって

いくようで、とても楽しい時間でした。彫刻の観方に決まりはないといわれます。ガイドとして、制作背景などをご紹介しつつも、作品から受ける印象は鑑賞者一人ひとりで違って良いと思います。

市役所新庁舎の建設に伴い、真締川沿いの風景も少し変わりました。新庁舎前に移設された向井良吉氏の《懸ける》(ときわ公園の《蟻の城》で知られる作家)など、新しい景観も生まれています。

皆さんもこの機会に真締川沿いを歩いてみませんか。次回のUBE 現代日本彫刻展は2027年開催ですが、その前に既設の彫刻をゆっくりと味わってみてください。(信濃学)

てくてくときわ公園「常盤公園誕生から100年 Part3」

～たくさんの植物に囲まれた中で見つけましょう！～

9/27

ときわ公園で2年に1度開催されている彫刻展は、60年以上の歴史を重ね、昨年ついにギネス世界記録に登録されました。今回は、正面玄関からレストハウスまでの作品を見て歩きます。



《ネジリンボウ'81-A-B》能登原弘芳

最初は正面横の《MIURHA '78》。1978年制作のこの作品は、海をイメージして「生まれ出づるもの」をテーマにしています。石炭記念館下にある《坑夫》は時代を先取

りすぎたため「未完成の作」とも評されたそうです。白鳥湖横の《杵》は、体験型作品で、時と場所を加えることで“インスタレーション”として楽しむことができます。

そのほか、風・太陽光・水・雲といった自然の要素を視覚化する作品、石そのものに手を加え新たな意味を与えた作品、時代という社会的テーマを扱う作品、外にある彫刻なのに「覗く」ことで内面を考えさせる作品など、バリエーション豊かです。



《SUN SADDLE'87》山口牧生

なかでも私が一番好きなのは、あれこれ想像すると脱穀機のようにも見える作品です。作者・田辺光彰氏は、環境破壊への警鐘として野生稲に注目し、稲穂をテーマにした制作やプロジェクトを国内外で展開しています。ときわ湖がもともと米作りのため池であること、そして現代でも米が注目されていることを思うと、何か縁を感じます。

最後の《Oscillation(オシレーション)》は「ゆれ」という意味。大地を揺るがすということでしょうか？

どの作品がどれなのか、ぜひ現地で考えてみてください。なお、ここでの説明の一部は私見です。(三輪立子)

てくてくときわ公園「動物園で
動物の好きなもの見つけた」
～時を語るもの発見 時とは～
10/18

ときわ動物園は、2015 年のアジアゾーンのプレオープン、2016 年のグランドオープンを経て、来年で 10 年を迎えます。生息環境展示としての役割を果たしながら、今では豊かな森に成長しました。

熱帯アジアゾーンでは、市民の寄付によって植えられた木々が育ち、シイ・コナラ・クヌギといったどんぐりの木が実をつけています。「トキワグミ」「トキワマンサク」など名前に“ときわ”の付く植物のほか、スオウチク・チュウキンレン・バショウといったアジア原産の植物も見られ、多様な景観をつくっています。



どんぐりの種類の説明中

夫婦岩池から引水したシロテテナガザルの水堀には、メダカやフナなどの水生生物が泳ぎ、上空をトンボやチョウが舞っています。サルに人気のイヌビワもあります。チリの銅山を模したトンネルを抜けると、ヤシ・ディクソニア・ソテツなどが生い茂る中南米水辺ゾーンへ。反対側には、アジアゾーンを名残惜しむかのようにアコウ・ビワ・ソヨゴの木々が並びます。リスザル島の背後にはワシントンヤシがそびえ、オオオニバス（模型）も浮かび、異国情緒たっぷりです。

ヤシは食べたりはしませんが、遊びに使われることもあります。そばにあるイペ（彫刻の素材にも使われた木）は一時枯れていましたが、いまは少し葉をつけています。そういえば、ルリゴクラクチョウカもありましたね

長い坂道を登っていくと、アフリカ丘陵・マダガスカルゾーンに入ります。イヌエンジュ、ニセアカシア、センダン、ネムノキなど

のマメ科の大木が枝葉を広げ、ワオキツネザルが棲む乾燥地帯にはユッカ、アオノリュウゼツラン、亜竜木が、エリマキキツネザルの棲む熱帯雨林地帯には木や草が茂っています。プリベットはみんなのお気に入りです。

最後の山口宇部ゾーンは、山里をイメージした空間です。柿の実が地面に落ちていたり、動物の排泄物の上から植物が芽吹いていたり、スタッフの手作り感あふれる演出が見られ、参加者からは「すごい!」「癒やされるね」と感嘆の声が上がりました。

今回は、園内にある約 5 万 4 千本の木や草の一部を楽しみました。(三輪立子)

古地図を片手にまちを歩こう
「上宇部（やさしいコース）」
10/12

山口県は、子どもや子育てにやさしい休み方改革の一環として、4 本の柱を設けています。その一つが「家族で山口への愛着を深めながら楽しめるコンテンツの充実」です。これを受け、山口県観光連盟と地元ガイドが協力し、これまでの「古地図を片手にまちを歩こう」に「家族でやま学の日」向けの“やさしいコース”を加え、昨年からは実施しています。

親子連れや歴史に詳しくない方も気軽に楽しめる内容で、「上宇部のやさしいコース」は、琴崎八幡宮バス停をスタートし、渦橋、お旅所、米蔵跡、大蔵神社跡、福原邸跡、琴崎八幡宮を巡る約 1.8km・1 時間のコースです。

山口放送 (KRY) の県政番組「元氣創出! やまぐち」の取材で、親子 3 名と一緒に歩きました。最初の見どころは「渦橋」です。



テレビ放送の様子

橋の名前は一方が漢字、反対側がひらがなで刻まれています。約 210 年前に描かれた古地図「一村

限明細絵図 宇部村清図」のリーフレットには「板橋」と記されており、当時は木の橋でしたが、60 年後に御影石の太鼓橋「渦橋」に架け替えられました。「虎の巻」リーフレットには QR コードがあり、古地図を表示して江戸時代と現在の自分の位置を見比べながら歩くことができます。

福原邸跡では、屋敷門の軒瓦に福原家の家紋「片喰（かたばみ）」



家紋「片喰（かたばみ）」 カタバミ

が見られます。カタバミは、庭にも生える黄色い小さな花を咲かせる植物です。繁殖力が強く「厄介な雑草」とも言われますが、そのしぶとさから「家運長久」「子孫繁栄」の象徴とされ、武家に人気がありました。

また、カタバミは「鏡草」「銭みがき」とも呼ばれ、シュウ酸を多く含むため、金属のサビ取りや鏡・仏具を磨くのに使われてきました。これまでの「てくてくまち歩き」でも、カタバミの葉で 10 円玉を磨く体験をしていただいており、今回は R 子ちゃんが一生懸命に磨きピカピカになりました。

福原邸跡の裏堀沿いにはマテバシイの実がたくさん落ちており、「今度はどんぐりを拾いましょう」と声をかけると、R 子ちゃんは目を輝かせて集めてくれました。

最後は、親子仲良く手をつなぎ、琴崎八幡宮の石段を数えながら拝殿へ向かいました。雨の日にはご神木・オガタマノキにハート形の模様が浮かび上がるのですが、この日は晴れていたため残念ながら見ることはできませんでした。締めくくりに「神話まんがこどもみくじ」を引いて、まち歩きを終了しました。

「古地図を片手にまちを歩こう」は、希望日にいつでもガイド対応が可能です。お子さまと一緒に、ぜひ「家族でやま学」にご利用ください。(脇彌生)

てくてくまち歩き「生まれ変わった恩田スポーツパークと周辺」 ～多少の雷雨は歩きます～

10/4

あ いにくの雨模様の予報で、参加者の皆さんも傘を手にのぞみました。今回のコースは、前半が恩田スポーツパーク散策、後半が恩田周辺のまち歩きです。

参加者の多くはリピーターの方々。「雨が予想されるので、少し早めの移動を試みます」とお伝えすると、皆さん快く了承してください、少し早足で所要所の説明を楽しみながら歩きました。



恩田ブル跡地辺り

幸いスタート時は曇り。まずは今年4月6日にオープンした恩田スポーツパークを巡ります。ここは「ストリートカルチャー」「ボールパーク」「ランニング」「アリーナ」の4つのゾーンから構成される新しいスポーツ施設です。従来の野球場なども少し手が加えられましたが、目玉は新設のストリートカルチャーゾーン。恩田ブル跡地を中心に整備され、都市型スポーツ広場や屋根付きグラウンド、にぎわい交流施設などが並びます。

この日も、スケートボードやバスケットボール3×3を楽しむ若者の姿が見られました。少雨でも利用できる芝生や新しい設備が整い、年代を問わずスポーツやレクリエーションを楽しめる「新しい形の運動公園」となっています。

続いて、恩田運動公園から周辺エリアへ。天気は下り坂となり、少し急ぎ足で移動します。恩田地区は常盤用水によって田畑が広がった土地で、今も用水が縦横に流れています。用水をたどりながら草江駅に立ち寄り、2017年に郷さとこさんが手がけた駅舎アートを見学。旧草江公会堂から恩田河内神社へと進みます。

ここは江戸時代、遠浅の海との



最寄りの「草江駅」駅舎アート境界で、用水はやがて清水川、塩田川へと注いでいく地域です。

途中で雷雨に見舞われましたが、神社でしばし雨宿り。少雨となったところで再び歩き出し、逆サイホン式用水の仕組みを簡単に説明しながら公園へ戻ります。ちょうど到着したころ、雨がやみました。

お天気には恵まれませんが、参加者の皆さんのご協力のおかげで、無事に楽しく歩くことができました。（遠藤宣子）

1枚の絵葉書から「宇部市役所」

今年8月、宇部市役所第二庁舎（市民交流棟）がオープンし、本庁舎と併せて全面完成となりました。

宇部村から宇部市になったのは1921（大正10）年ですが、宇部村役場を、市制施行に伴い他の場所へ移転することには、地元住民の反対がありました。それを納得させたのは、寺の前に宇部中学校を建築することでした。1920（大正9）年にできた全国初の村立の中学校、現在の山口県立宇部高等学校です。多くの住民の寄付によって設立されたことから、炭鉱によって村が豊かであったことがうかがえます。

1922（大正11）年、初代の宇部市役所は、現在の宇部郵便局の東寄り、中津瀬神社の北の東新川に建てられました。当時は、真締川を挟んで東側を東新川、西側を西



初代の宇部市役所

新川と呼んでいました。木造一部四階建て、玄関入口はコンクリート製でした。

また、新生宇部市の住民の心をひとつにするために取り組まれたのが、農村部と新興都市部をつなぐ道路の整備でした。

昭和天皇の御大典記念として、1925（大正14）年に完成した参宮道路です。「宇部の琴崎八幡宮というものは周防灘を通る外国船から見えるようにせねばいけん、それには八幡様の正面から真直ぐに海岸まで道をつける」と紀藤閑之介が渡邊祐策と話していたように広い道が出来上がりました。それは、寺の前と新川の住民の心をひとつにするための重要な道でもありました。



空襲で骨格だけ残った市役所入口
「山口県空襲」より

初代の宇部市役所は、市民にとって「市になった」という誇りの象徴であったことでしょう。現在ではすっかり石炭とは縁が薄くなりましたが、教育やインフラ整備に力を尽くした先人の「共存同栄・協同一致の精神（こころ）」は、これからも大切に受け継いでいきたいものです。（脇彌生）

～今年度入会の新会員紹介～

山西秀樹

♪うるわしい緑のまちに---♪
♪たくましく伸びゆくまちに---♪
そして

♪われらのきずく宇部のまち---♪

宇部市民の歌にあるように、この素晴らしいまちを多くの人に知ってもらいたい、と思いました。

常盤湖に見られる素晴らしい緑、石炭を資源としてたくましく伸びてきた（石炭記念館）、これから伸びゆくまち。世界に誇る野外

彫刻展。これらを多くの人に知ってもらいたいと思います。

日高和浩

何か始めようという気になっていた私は、広報の観光ボランティア募集案内に目を留めた。

この案内は私に、過日の旅先での女性観光ボランティアのことを思い出させた。彼女は初ガイドのプレッシャーで現場から逃げ出そうとしたが、結局初仕事をやり遂げた。彼女はこの初仕事を「本当に、やって良かった。」と言う、言葉で締めくくった。

入会に際して、彼女のこの言葉が私の背中を押してくれた気がする。

杉原健二

私は北海道から沖縄まで 4～5 年周期での転勤族でした。宇部と言えば石炭と常盤公園の印象だけでした。定年後、もっと宇部を知る為、1 年掛けて「てくてくま

ち歩き」に参加させて頂き、古地図を片手に地域の歴史と背景を学ばせて頂きました。そして先人の方々の大変なエネルギーにより今の住みやすい宇部があることに驚きました。

私が得た感動を、宇部に縁のある方々にも共有したいと思っています。今の宇部をもっと知り、その素晴らしさを再発見していただくことで、一人ひとりが見ている風景が、私と同じように変わっていけば嬉しいです。

河村洋子

私は県外の出身で、定年まで市職員でありながら、宇部市のことは知らないことばかりでした。市への愛着が深まるにつれ、知りたいという思いが募っていきました。そんな時、市広報で観光ボランティアガイド養成講座募集を目にしました。知らない情報の連続で、知ることの楽しさを体験し、これらを誰かに伝えたいという

思いが募り、ふるコンに申し込みました。活動等で皆さんの熱意に触れ、仕事の関係と歩行障害のためご迷惑をおかけするのではと、心配しているこの頃です。

深井清司

私は、以前より宇部に生まれて 70 年以上にもなるのに宇部のことはなにも知らないと感じていました。現役時代は、近所のことも余り知りませんでした。もともと宇部のことには興味はあったし何か勉強方法は無いかと思っていました。

そんな時、広報でふるコンを知りこれだと思い応募しました。

入会して未だ日は浅いですが、以前より宇部について分かってきました。ますます興味がわいて来ましたので今後とも宜しくお願ひします。



まち歩き予定表

日時	集合場所・距離	内 容
12/14 (日) 10:00～11:00	琴崎八幡宮バス停後ろの駐車場 約 1.8 km	古地図を片手にまちを歩こう「上宇部やさしいコース」③ ※親子連れ大歓迎 渦橋、御旅所、福原邸跡、琴崎八幡宮
12/20 (土) 9:20～12:40	JR 宇部新川駅前広場 約 6.5 km	古地図を片手にまちを歩こう 小串 「この辺りは入海で島・鶴ノ島・黄幡の三つの島がありました」
1/4 (日) 9:20～12:40	宇部総合庁舎 (琴芝町 1-1-50) 約 6.6km	てくてくまち歩き「琴崎八幡宮で初詣」 発祥の地から遷座の地を訪ねて願をかける
1/18 (日) 9:30～12:00	藤山ふれあいセンター (文京町 11-13) 約 4km	古地図を片手にまちを歩こう 藤山 「犬尾」と書いていた居能かつての海岸線に沿って「犬の尾っぽ歩き」
1/28 (水) 10:00～11:00	琴崎八幡宮バス停後ろの駐車場 約 1.8 km	古地図を片手にまちを歩こう「上宇部やさしいコース」④ ※親子連れ大歓迎 渦橋、御旅所、福原邸跡、琴崎八幡宮
2/14 (土) 9:50～12:00	琴崎八幡宮バス停後ろの駐車場 約 3.5 km	古地図を片手にまちを歩こう 上宇部西 福原邸跡、維新館跡、鎌田橋、中村地蔵尊
2/28 (土) 9:50～12:00	JR 宇部新川駅前広場 約 3 km	てくてくまち歩き「真締川が曲がっていた謎」 歴史や重要文化財の渡辺翁記念会館辺りの文化にふれるアート巡り
3/8 (日) 9:50～12:00	琴崎八幡宮バス停後ろの駐車場 約 3.5 km	古地図を片手にまちを歩こう 上宇部東 福原邸跡、教念寺、松月院、琴崎八幡宮
3/21 (土) 9:50～12:00	ときわ公園正面入口 入館料必要 約 2.5km	てくてくとときわ公園「ヒスイカズラと玉之浦に魅せられて」 世界を旅する植物館、椿苑
3/25 (水) 10:00～11:00	琴崎八幡宮バス停後ろの駐車場 約 1.8 km	古地図を片手にまちを歩こう「上宇部やさしいコース」⑤ ※親子連れ大歓迎 渦橋、御旅所、福原邸跡、琴崎八幡宮

■申し込み、お問い合わせ ※定員 30 名、受付は開催日の一ヶ月前から実施日の 3 日前までです。

宇部市観光交流課 TEL(34)8353 FAX(22)6083 こちらの QR コードからもお申し込みできます。→

当日連絡先 090-9060-9752 (脇)



